



No. 159 2026.1
(株) よかネット

NETWORK

「デンマークにおけるリカレント教育の状況と日本への示唆」 2
～第 144 回地域ゼミ報告～

見・聞・食

釜山、3 泊 4 日の船旅を満喫～釜山の都市開発、観光地を体感～ ---- 5
”まちづくり”という仕事に携わるときに意識すること 8
～株式会社ホーホウとの交流会を通して～

近況

共生社会 9
公園の樹木に銘板を取り付けるワークショップを行う 11
Google マップ上の投稿分析のツールご紹介 13
今年は少し趣向を変えて抱負を述べます 13
私的 AI 創作元年 15
「三歳児に連れられて、今年も歩く」 16
航空オタ 13 年目 17
新たな区切りに～三十路を過ぎて今後について考える～ 17
1 年前からの成長記録 18
一年を振り返って 19
異常が平常になる中での原点回帰 20
一年目の振り返り 20
多様な森と木の世界に 21
ネット社会～便利だけど不便さを感じたこと 22

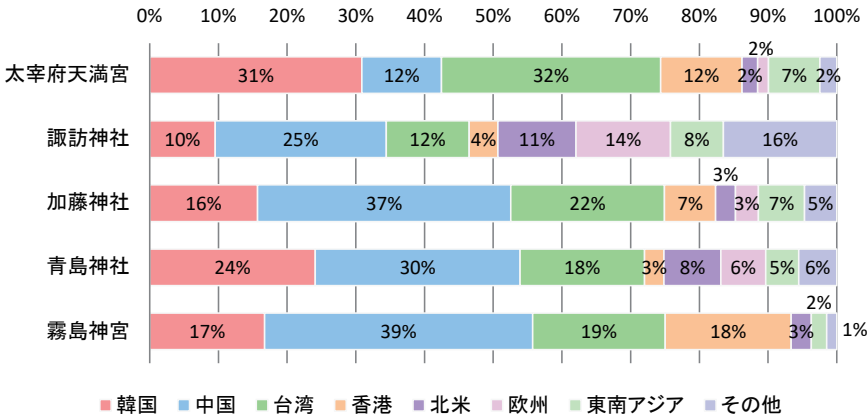
●九州の神社仏閣へのインバウンド来訪状況

九州内の神社が公表されている参拝者数をもとに、各県別に参拝者数が多い神社を 7 社抽出した。(福岡:太宰府天満宮、佐賀:祐徳稲荷神社、長崎:諏訪神社、大分:宇佐神宮、熊本:加藤神社、宮崎:青島神社、鹿児島:霧島神宮)。

(株)ナビタイムジャパンが提供する訪日外国人向けのナビアプリ利用者の GPS データをもとに、上記 7 社を訪れた訪日外国人の人流データを調べたところ、5 社の国地域別データは取得できたが、宇佐神宮と祐徳稲荷神社は一部の期間でデータ欠損が見られた。

そこで 5 社について、国地域別の外国人来訪者の属性を比較すると、太宰府天満宮は台湾が 32%、韓国が 31%と他の神社と比較して高く、太宰府天満宮を訪れた外国人の 72%は訪日リピーターで、旅慣れた東アジアからの観光客が主な客層となっている。

諏訪神社は欧州が 14%、北米が 11%と欧米の比率が高いが、リピーター率は 53%と 5 社の中で最も低い。霧島神宮や青島神社は中国人の比率が 3 割を超え、霧島神宮は香港人が 18%と 5 社の中で最も高い。中国や香港からの入込が減少しているといった報道がある中、九州各地の寺社や観光地への影響が懸念される。



※集計期間は直近 1 年間 (2024 年 11 月～ 2025 年 10 月)、各神社が含まれる 250 × 250 mメッシュにおける 30 分以上滞在者の量や属性を集計

「デンマークにおけるリカレント教育の状況と日本への示唆」

～第144回地域ゼミ報告～

山崎 裕行

昨年10月10日（金）に、「リカレント教育（社会人の学び直し）」をテーマに第144回目の地域ゼミを開催しました。近年、自分の仕事に関する専門的な知識やスキルを学ぶリカレント教育が注目される背景には、日本人の平均寿命の延びと技術革新の急速な進展が大きくかかわっているそうです。

このリカレント教育ですが、世界的には、特にスウェーデン、フィンランド、デンマークなど北欧の小国、またベルギー、ドイツ、フランスなどの国々はいち早くリカレント教育の重要性に気がついて、国を挙げてリカレント教育への積極的な取り組みを始めたとのこと。そこで、9月末にデンマークに視察研究に行った当社のOBでもあり、現在、北九州市立大学地域共生教育センター特任教員である仙波大海氏をお招きして、視察結果等をお話いただきました。

●生涯学習とリカレント教育

話の前提として生涯学習とリカレント教育の概要について話をさせていただきました。

文部科学省では生涯学習を「人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習のこと」と定義し、リカレント教育については、「①キャリアチェンジを伴わずに現在の職務を遂行する上で求められる能力・スキルを追加的に身に付けること（アップスキリング）や、②現在の職務の延長線上では身に付けることが困難な時代のニーズに即した能力・スキルを身に付けること（リススキリング）の双方を含むとともに、③職業とは直接的には結びつかない技術や教養等に関する学び直しも含む広義の意味を持つもの」と整理しているそうです。

業務に必要な能力・スキルの向上だけではなく、直接的には結びつかない技術や教養等に関する学び直しも含む点は、注目してよいと思います。

●なぜ、直接的に結びつかないことも含んでいるのか

生涯教育の概念を提唱したフランスの教育学者ポール・ラングランは、1965年12月にパリで開催されたユネスコ成人教育推進委員会において、「持続的教育」の概念を提唱し、教育を人生の一時的な過程ではなく、生涯を通じて継続的に行われるものと位置づけました。

「教育とは、ひとりの人が初等・中等あるいは大学のいずれかを問わず学校を卒業したからといって終了するものではなく、生涯を通して続くものであるということである」という、ラングランによる定義を踏まえて、どのように取り扱っていくかの議論が進みます。時を同じくして、スウェーデンの元首相であるオロフ・パメルは、1969年第6回ヨーロッパ文相会議にて「リカレント教育」を提唱、1973年にOECDが生涯教育構想の1つとしてリカレント教育論を提唱したことで国際的に広まりました。

日本はどうか。仙波さんのお話では、リカレント教育をはじめとした生涯学習の拡大が求められているものの、実際には社会人の学びなおしの実施率は依然として低水準に留まっており、いまだ生涯学習が十分に浸透している状況とは言えません。しかし、ウェルビーイングの向上や少子高齢化に伴う生産性向上の必要性といった観点から見ても、生涯学習の重要性は今後ますます高まることが考えられる、とのこと。このような背景もあり、今回、生涯教育の先進国として知られるデンマークにおいて、なぜ日本と比較して生涯教育が発展しているのかを学ぶことを目的に、民衆の学校「フォルケホイスコーレ」に視察に行かれたそうです。

●フォルケホイスコーレの仕組み

フォルケホイスコーレとは、国籍・年代を問わず、あらゆる人々が自由に学べる場であり、形式的な試験や資格取得を目的とせず、自己の成長や新たな知見の獲得に重点を置いている民衆のための全寮制



ノーフェンスホイスコーレ

国民学校のことで、主なコースは7つ（①総合、②専門、③スポーツ、④キリスト教・スピリチュアル、⑤ライフスタイル、⑥シニア向け、⑦ユース向け 一般社団法人 IFAS HP より）に分類されるそうです。2025年9月時点で、デンマークでは70校がフォルケホイスコーレとして運営されており、これらの学校は都市部から農村部まで多様な地域に所在し、それぞれが独自の教育理念と特色を持っていることが特徴とのこと。いずれのフォルケホイスコーレも、対話を重視しているためデンマーク語（もしくは英語）の習得が必須とされています。

現在は、主に2～4週間の短期コースや40週間の長期コースが用意されており、入学時期は学校ごとに異なるものの、1月～3月と8月～10月の開始が多いとのこと。面白いのが入学条件で、17.5歳以上ということが唯一の条件だそうです。17.5歳未満はどうなのかというと14歳～18歳を対象とした青少年版のフォルケホイスコーレ「エフタスコーレ」もあるそうで、多くの学生はこちらを利用しているとのこと。

入学者の年齢別の割合は、20代が多く、これはギャップイヤー（大学への入学前、在学中、卒業後に、社会体験や自己研鑽のために設ける一定の空白期間のこと）の考え方が大きく影響しているとのこと。

「学びたい」意欲があれば、いつでも学べる環境があるのは、非常に魅力的に感じる一方、私が学生の頃（今から20年以上前）にギャップイヤーの考え方が浸透していたら、何をしたらだろうなどの思いが巡

ノーフェンスホイスコーレの食堂の様子
ります。

●フォルケホイスコーレの実際

今回の視察は、千葉忠夫氏が設立したノーフェンスホイスコーレを訪れたそうです。千葉忠夫氏は、1967年に福祉国家の実態を学ぶために渡欧され、1983年に日本からの福祉研修生を受け入れる日欧文化交流学院を開設。2005年に日欧文化学院をフォルケホイスコーレ「ノーフェンスホイスコーレ」として再編し、デンマーク政府の認可を得て運営を開始しました。開設の歴史的経緯から世界各国の学生が集まっていることや、授業科目に福祉を取り入

れており、知的障がいを持つ人も受け入れるなど福祉的観点を重視している点が特色として挙げられるそうです。

受講コースは2種類あり、1つは短期研修で訪問する大学・企業・団体からの要望を受け、研修内容を目的や関心に応じて調整したプログラムを実施、もう1つはロングタームで、1年間を春学期と秋学期の2ターム制で構成し、学生は基本的にいずれか1タームの期間を過ごす形で学びを深めるそうです。なお、長期コースでかかる授業料（年間110万円～135万円程）は、デンマーク政府が2/3負担しています。授業料の補助は、国籍・年代を問わず受けることができるそうです。

授業料が補助されている背景には、フォルケホイスコーレがいかなる場として位置づけられてきたのかという理念的姿勢が強く影響していると考えられます。

すなわち、フォルケホイスコーレは民主主義を実



モーニングアッセンブリーの様子

実践する学習共同体であり、多様な国籍や価値観をもつ学生同士が対話を重ねることで相互理解を促進し、学びを深化させる場として機能しています。また、フォルケホイスコーレは公教育の一形態として社会的に認知されており、国家としてその参加を支援・保障する仕組みが整備されています。このような理念的基盤が、授業料補助制度を含む公的支援の根拠となっているそうです。

仙波さんが視察した時点では、日本人は9名在籍しており、1名は大学休学、もう1名はギャップイヤーの活用、その他は大学卒業後、仕事を退職・休職して参加しているそうです。その目的は多くの場合はデンマークの福祉を学びたいというもので、加えて、日本人スタッフがいることが決め手になっている傾向が大きいそうです。1年単位で留学を予定している学生が多く、他の教育機関での留学プログラムと併せて参加している学生や、現地で地域貢献学習に取り組む学生もあり、留学前後で学びを継続しています。

授業について、3つ特徴的な内容を教えていただきました。

①モーニングアッセンブリー

フォルケホイスコーレの「バイブル」とも呼ばれる歌集（ソングボー）から歌を選択して会場の皆で合唱するもので、それに合わせて曜日ごとに様々な先生のショート講義を実施。

②選択科目「音楽」

体を動かしながら、歌を歌うレクリエーション。イベントに向けて、演奏の練習などを行い、「上手に演

奏する」ではなく「音楽を楽しむこと」を重視

③クライメートアクション

地球温暖化などの気候変動に対して、その進行を抑制（緩和）し、またその影響に適応するために、学生が行う取り組み。環境問題に関するクイズやプレゼンを学生が企画し、地域に住む人々も参加

実学というよりも、学生同士の交流や対話を重視していること、個々人の「楽しい」を大切にしているなど感じます。

●日本への示唆

日本への示唆として、仙波さんから次のようなまとめをいただきました。

デンマークで生涯学習が推進される理由としては、グルントヴィが提唱した理念「生のための学校（School for Life）」が、現在まで国民の意識や文化に深く根付いている。最も代表的な生涯学習の場であるフォルケホイスコーレでは、長期コースには20歳代の若者が多く参加し、短期コースには60歳代の高齢者の参加が多い。これは、それぞれのライフステージや目的に応じて柔軟に学びの形を選択できる社会環境が整備されていることを示している。

一方で、日本では依然として「学ぶ＝若者のもの」、「学校＝資格取得や就職のための場」といった認識が強く、社会人が再び学校に入学することへの心理的・経済的なハードルが高い。これに対してデンマークは、年齢や職業に関わらず「学び続けること」が自然な営みとして社会に受け入れられており、生涯にわたり学ぶことが民主主義社会を支える基盤として位置付けられている点に大きな違いがある。

このまとめから私が思うことは、「生涯にわたり学ぶことが民主主義社会を支える基盤」という点は、非常に重要なことではないかということです。多様な価値を持つ人間がお互いに尊重しながら形作っていく。そのためには、「学ぶ」ことは一生続く営みだと思います。「学ぶ」ことをしっかりと国として社会生活に位置づけ、支えている姿勢は、今の社会情勢を鑑みても、見習う必要があると思いました。

（やまさき ひろゆき）

釜山、3泊4日の船旅を満喫

～釜山の都市開発、観光地を体感～

山田 龍雄

昨年(2023年)の10月30日～11月1日、3泊4日の釜山の旅を楽しんだ。メンバーは、私が加盟している異業種交流会・SASの会の5名と小人数の旅であった。今回の旅行は、旅行社の船旅フリープランに個人で申し込み、現地では全くのフリー行動であった。一日目は博多港国際ターミナルから昼の12時半に旅客船カメラに乗りこみ、6時間後の18時半過ぎに釜山港国際旅客ターミナルに到着した。建替えられた釜山国際旅客ターミナルは、その規模も博多港国際ターミナルより大きく、建築デザインも美しく、特に照明は華やかであった。

私は5回目の韓国旅行(1回目：釜山・慶州、2回目：ソウル・太田市、3回目：済州島、4回目：扶余、光州)であり、釜山の街を見て回るのは30数年ぶりである。

30数年前の釜山は、戸建て住宅密集地が多く残っており、屋根にはキムチ用の壺が並んでいた記憶が鮮明に残っていたため、30年後の釜山の変貌ぶりに驚愕した。

今回の旅で感じた釜山の都市の変貌、発展ぶりを報告する。

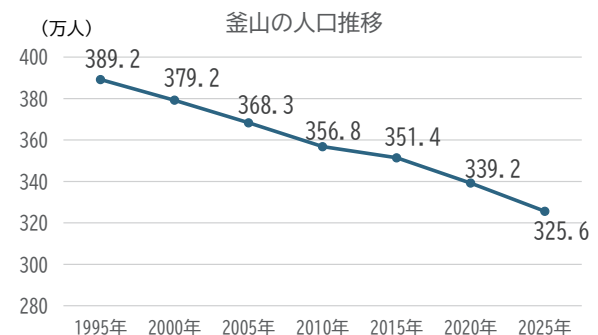
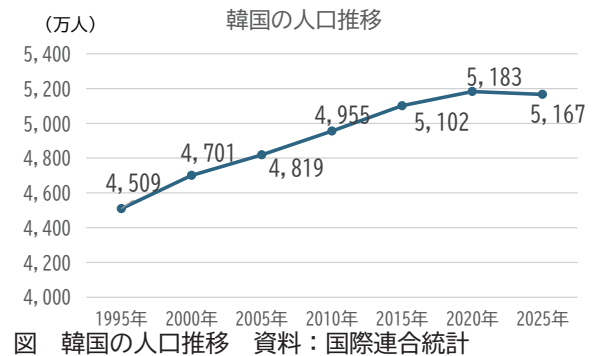
●韓国第二の都市も危険信号

この記事を書くために、釜山、韓国の人口はどうなっているかが気になり、調べてみた。

釜山市は1963年に政府の直轄市に昇格し、その後増加傾向が続いたが、1995年の約389万人をピークに減少に転じた。2025年で約326万人と30年間で63万人(年間平均約2万人)の減となっている。これまで釜山は韓国の第二の都市を維持してきたが、今後10年以内には、仁川市に明け渡す可能性があると予測されている。

韓国自体の人口も2020年の5,183万人をピークに減少に転じており、概ね40年後の2060年は3,500万人を切ると予測されている。

韓国ではソウルや釜山に人口が集中している一方、



●釜山の人口推移 資料：韓国統計庁

最近では都市部自体も少子化や住宅価格の高騰等によって、自然減と人口の流出が進み、減少に転じている。韓国の合計特殊出生率は、2022年で0.78人(2022年韓国統計庁)と1.0を切っており、少子化の問題は我が国より深刻である。

●超高層マンション・ビルが林立する海雲台(ハウンド)

釜山の人口は減少傾向にあるとはいえ、福岡に比べて大都市であり、近年の再開発により超高層のマンション、ビルが立ち並び、福岡市では見られない光景であった。

元々、海雲台は釜山郊外の温泉地、海水浴場として市民に親しまれてきた場所であったが、1990年ごろから計画的な都市建設が進み、高層住宅が林立し、大規模な新しい市街地が形成されたと言われている。特に海岸沿いに聳える101階建てのランドマークタワーは圧巻である。

福岡に比べて釜山は海岸線が長く、海岸沿いに工場・流通施設が少ないためか、非常に海に開けた解放感がある。

●快適な市街地内のバス専用レーン(BRT)

今回の旅行のリーダー役であった大学後輩の中島君は韓国語が堪能であり、韓国事情にも詳しく



海雲台のランドマークタワー



市街地を走るバス専用レーン、時間も正確でバス代も福岡の半額以下

たので、彼のリードのもとに訪れる場所を決めてもらった。今回の旅行は自由行動であり、移動はバス、地下鉄、タクシーと各種交通手段を利用した。

二日目、釜山港近くのホテルから海雲台までバスを利用した。釜山市街地ではバス専用レーンがあり、乗り場も広く、時間も正確であった。この専用レーンのシステム導入は、2000年から始められ、2023年12月に完成したというから、完成して2年後に体験したことになる。推測ではあるが、戦後、道路幅員を広く確保したことで、このような専用レーンが可能になったのではないかと思った。地下鉄のサインも分かりやすく、中心市街地内での公共交通の面で福岡市との違いを感じた。福岡の交通渋滞箇所の天神では道路幅員が狭く、釜山みたいにバス専用レーンは無理としても、天神等の市街地の入口付近にターミナル（例えば中央ふ頭付近）を創り、そこでミニモノレールに乗り換えるようなシステムは導入できないかと、勝手ながら思っている。釜山はバス代も安く、1時間近くバス移動でも200円代であった。福岡のバス代の半額以下である。



レトロでSNS映えする列車



海に突き出し、床がガラス張りの展望台

バスの乗降に伴う料金支払いもコンビニで購入したデボジット式のカードが利用でき、観光客にとっては非常に便利であった。

●廃線跡を利用したブルーラインパーク

この廃線跡地計画は、2013年に釜山の東南部を走っていた鉄路の廃止に伴い、海雲台の開発の一環として官民連携で取組まれ、完成は2020年である。

この観光地には我々も含め、多くの外国人が来ていた。海雲台ブルーラインパークを利用して移動できるのは、尾浦（ミポ）～青沙浦（チョンサポ）～松亭（ソンジョン）に至る4.8キロメートルの区間であり、レトロで可愛い列車で海を眺めながらの移動は心地良かった。蛇足であるが、列車は満員で我々5人とも立っていたのであるが、

韓国の若者から席を譲ってもらった。やはり韓国は儒教の国である。

ブルーラインパークには、遊歩道沿いに2カ所、海に突き出した展望台がある。床がガラス張りで、やや高所恐怖症の小生もスリルを感じながら、なんとか渡り切った。



屋根・壁がカラフルな色で彩られている甘川文化村



路地の壁に付けられた可愛い案内サイン

●カラフルな斜面地密集住宅地の甘川文化村

三日目は、韓国のマチュピチュといわれている甘川文化村（カムチョン・ムナマウル）を訪れた。今では釜山の定番の観光地である。

甘川文化村が観光地となった経緯が興味深い。1950年代の朝鮮戦争時に北朝鮮からの避難民が移り住んで集落を形成したことから始まり、かつては「太極道村」とも呼ばれる貧しい地区であったが、2009年に「夢を見る釜山のマチュピチュ」という公共アートプロジェクトが開始され、アーティストたちが街を彩り、現在は釜山の代表的な観光地へと生まれ変わったという。

訪れて驚いたのは、甘川文化村のメイン通りは観光客で溢れており、釜山の一大観光地になっていたことである。メイン通りの展望所から眺める集落は、屋根や壁がカラフルな色で彩られ、独特な景観を形成している。

この観光地で感心したのは、擁壁にも SNS 映える面白い絵が描かれており、また家々の間の路地の道案内も手づくり感のある可愛いサインが取り付けられていた。徹底してカラフルな街づくりを演出している。



二日目の朝に食べたアワビ粥（1200 円）

観光客が増えるにつれ、この村でのアートプロジェクトがさらに発展したものだと思う。但し、ここでは居住している人もおり、このプロジェクトに対して居住者との合意形成をどのように行ったのかは気になった。

ここまで観光地化されると、当然、オーバーツーリズムの問題も発生しているのではないかと想像される。

●食べ物は日本より安い

個人的には旅の喜びの思い出は、半分以上が旅行先で食べる物にあると思っている。

今回の旅行では、中島君や同行者の人たちの事前調査のおかげで、すべて満足であった。

特に二日目の朝食で食べた「アワビ粥」はたっぷりアワビのエキスと身が入っており、美味であった。夜は、釜山の内陸部の中心街区である西面地区にある地元人気店の「海鮮鍋（烏賊、タコ、エビ、貝などの具だくさんのキムチ味）」はボリューム満点であった。

三日目の朝、チャガルチ市場近くの食堂で食べた「太刀魚定食」は、太刀魚のムニエルが3枚とボリューム満点で800円。リーズナブルであった。

帰りは釜山港を午後10時半に出航し、博多港着は翌朝5時半。ただし、上陸は博多港の入国手続きの準備もあり、7時半に降船できた。帰りは船の中で計9時間過ごさないとはいけませんが、旅行仲間とビールを飲みながら、旅の思い出を語らうには十分な時間であった。

この船旅は、3泊4日で税込み4万円と破格の価格であり、韓国という国を改めて体感できた記憶に残る旅であった。（やまだ たつお）

”まちづくり”という仕事に 携わるときに意識すること

～株式会社ホーホウとの交流会を通して～
酒見 知里

ホーホウと当社の共通点として、どちらも行政から仕事を受け、地域のために仕事を行っている。違う点として、課題解決へのプロセス、特に地域への関わり方が挙げられる。地域をより良くするという同じゴールを持っている我々だが、業務に対する姿勢や考え方が違っていると聞いていた。そのため、仕事に対する新たな視点を得られるのではないかとということで、交流会を開催した。

株式会社ホーホウは、施設管理運営や商店街等の活性化、人材育成、映像・音声コンテンツ制作、等様々なまちづくりに関する仕事に取り組む

私が学生時代に想像していたまちづくりの仕事とは、商店街の活性化をするために、地域の人ともにイベントの開催や日常的な交流が行われる場づくりなどのイメージを持っていた。ホーホウでは、私がイメージしていたまちづくりの仕事と近い事業を行っている。

現在私が携わる仕事は、調査や計画策定などの行政との対話で完結する業務であり、地域の方と関わる事が少ない。更に単年業務が多いため、継続的に接することがほとんどなく、学生時代のイメージより、地域との距離があると感じることもあるが、まちの指針となるビジョンを策定することで、魅力あるまちづくりに繋がればよいと思っている。

対して、ホーホウでは、施設の管理運営や商店街の活性化など3～4年程度のプロジェクトが多く、地域と共に作り上げることや地域主体の取り組みを実施するために、地域との対話を密に行っている。

私が携わる業務においても、計画策定だけではなく、その計画のビジョンや目標を達成するための事業に取り組むことが、求められていると感じる。また、私は、今後そういった事業に興味があり、取り組みたいという思いがある。

今回の交流会では、当社よりも地域との距離が近いところで仕事をしているホーホウから、地域の課

題解決に対するプロセスや地域に入る際の考え方やスタンスを伺った。その中で、私がどのように地域と関わっていきたいのか、ということを変更して考え、地域とより距離を近くするためには、どのような意識を持つとよいのかを学ぶ機会となった。

以前、「地域のプレイヤーを見つけ、共に新たな事業を立ち上げる」事業の公募があり、挑戦した。事例調査や地域特性の分析を行い、仮説を立て、地域の方へのヒアリングを行うことでプレイヤーを発掘した。

プレイヤーとの協議の中で、地域が主体となったマルシェをしたいという思いを汲み、実現を目指した。しかし、思い描いていた多くの人を巻き込んで実施するという形にはならず、マルシェに関わる人の機運を高める事ができなかった。その中で、地域の方を主役とするためには、どうすればよかったのかと、日々考えていた。

当社が関わったマルシェに似た事業をホーホウがしていることを知り、一例として、直方市のまちなか再生事業について詳しく話を聞いた。

直方市の事例では、商店街の実情を知るため、関わる方から話を聞き、商店街を中心とした駅周辺の活性化に向け、地域として何をすべきかを地域の方と議論した。その中で出た思いを形にするための行動として、マルシェ形式のイベントを行った。イベントでアンケート等のデータを取り、評価検証を行い、結果を反映して、翌年に再度イベントを実施した。それらのサイクルを、地域とともに実行した。地域の方々を中心にし、課題感や思いを拾い上げて、解決方法も共に実行する。この地域との関わり方の違いが、地域の方のやる気を引き出すことに繋がるのではないかと感じたと同時に、頻繁に地域に訪れているからこそ可能な方法である。

実際に、当社の携わったマルシェでは、平均すると月に1～2回ほど地域に訪れるが、ホーホウでは、平均すると週1回以上は訪れている。

交流会を通して、今後、私が地域との距離がより近い仕事を行うときに向けて、今から意識したいことが2つできた。「地域を知るため手法を学び、自分なりの型を作る」と「人との会話」である。

「地域を知るため手法を学び、自分なりの型を作る」については、仕事をする対象となる場所を知るときに、どのように地域を知るか、人によって違う。観光に関する仕事が多い私は、観光に関係のある分野を中心に、偏った見方で地域を見てしまうが、様々な産業や地域に関わる人からの目線、地図から街を見る人など、まちを知るための視点は様々であり、まずは普段関わる人の「地域を知る手法」を学び、現在仕事をしている街を様々な角度（歴史・地勢等）で知ろうと思う。学んだ後、まちを知る手法の型を確立させたい。

2 つ目の「人との会話」については、まちの方との会話を通して、地域の実情や地域の方の思いなど、多くの情報を得ることができる。また、会話の

中からアイデアが生まれることもあり、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の思いを引き出すことも仕事の中では求められる。人の思いを引き出すことのできる人になるためには、話し聴く経験をより積むことが必要である。会話の経験値を上げるために、見知らぬ人との会話がしやすい屋台から挑戦することもよいかもしれない。

交流会の最初に、他人に伝わりづらい仕事。という共通点が出た。まちづくりという仕事は、地域が主役となるため、裏方となり、人に認識してもらう機会が少なく、行うことも多様である。同じまちづくりに関わっている他人の話を聞く場をいただけたことに対して、株式会社ホーホウと所員へこの場を借りて感謝申し上げる。（さけみ ちさと）

近 況

共生社会

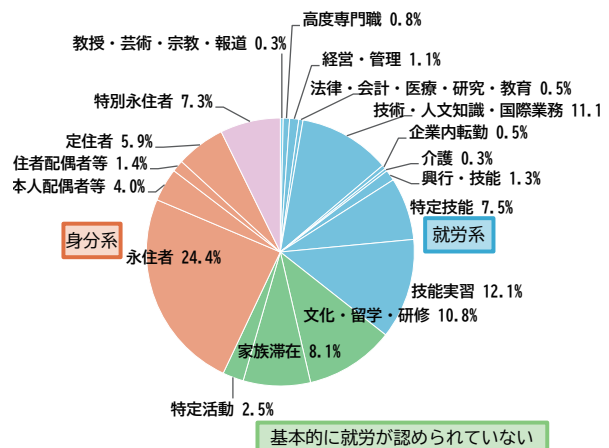
昨年の選挙で争点の一つとなった外国人との共生のあり方では、現行の制度改革を訴えた政党が席数を増やすなど、外国人との付き合い方を考えさせられた方も多いと思う。また、高市総理の誕生により、改めて、日米同盟やアジア諸地域との付き合い方など、国内外での外国人・外国と共に生きることへの関心が、世間でも高まっている気がしている。

とくに、訪日外国人の増加がもたらした観光地でのオーバーツーリズムの問題は、地方への訪日外国人の分散化の取組を加速しているようで、最近福岡でも欧米系の観光客が増えているようである。

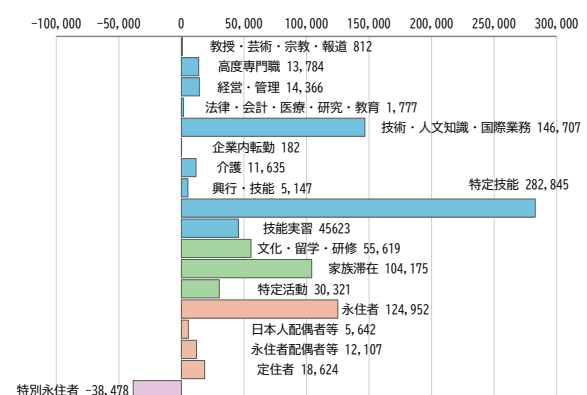
訪日外国人がコロナ禍前よりも増えていることは、メディアにもよく登場するが、最大顧客との関係から、今年の春節がどうなるのか、気を揉む事業者も多いのではないだろうか。

訪日外国人の受入問題だけでなく、外国人を中心とした住宅の建設に対する騒動が福岡でも起こるなど、観光の受入だけでなく、生活の場での外国人との共生、移住の受入問題も今後各地で起きるであろう。

2019 年に開始された特定技能制度により、外国人労働力の受入れが拡大し、コロナが沈静化したことにもよって、在留外国人が増加したと言われている。



図：2024 年在留資格者数 資料：在留外国人統計



図：2019～2024 年在留資格者増加数
資料：在留外国人統計

る。その動向が気になったので、在留外国人統計をみてみた。

2024 年 12 月時の在留外国人は 377 万人、そのうち就労系の在留者は 134 万人、35.6%である。就労が基本的に認められていない留学、家族滞在等 80 万人 (21.4%)、そして永住者、配偶者等の身分系 135 万人 (35.7%) となっている。なお、日本国籍の取得や帰化された方は、この統計には含まれない。2020 年国勢調査では、日本以外の国籍は 460 万人となっている。

日本の在留資格を持つ人たちの動向を、2019 年と 2024 年の 5 年間で比較した。

図：2019 / 2024 年住基 5 歳階級別人口増減



も、最近は都市部だけでなく、技術研修などで都市周辺の農村地域にも外国人の居住が見られ、コンビニなどにも多くの人が就労している。

在留外国人は、日本の人口減少を緩和することに寄与をしていると思われるが、一時的な労働力（特定技能・技能実習など）と定住・共生を目指している専門人材やその家族・永住者（技術・人文知識・国際業務、家族滞在、永住者など）との二極化が進んでいるとも言える。外国人による不動産取得や都市部での賃貸マンション取得による民泊経営、さらにはマンション建設など、住んでいる街に外国人が大勢住むような建物が立つ可能性は否定できない。

住基台帳の外国人登録数を2019年と2024年で見比べてみた。大都市では就労や留学のために20歳代になる時に流入するという特徴がある。しかし神戸や京都、名古屋では、30歳代になる時、福岡は25歳以上になる時、日本人が流出する。（留学生の移動と思われる）

また、15歳未満の日本人の子どもは、都区部、大阪、名古屋、川崎、京都などでは減少し、横浜や神戸でも流入がほとんどみられない。外国人流入は、20歳代になる時に各都市にみられるが、横浜や千葉、川口などではその上の年代まで流入している。外国人の就労や居住による人口流入は、地域の産業構造によって異なるようである。※2（左図参照、要因等の詳細は別稿予定）外国人の年少人口の増加は、就労人口ほどではないが、学校現場での多言語への対応だけでなく、生活習慣、文化の違いなどへの対応も必要である。インバウンドの増加だけでなく、滞在・居住人口の増加も想定されるなか、相互の理解をもとに、外国人と共に生きていくためのまちづくりに取り組んでいくことが必要と思われる。（山辺眞一）

※1 都区部、大阪市、横浜市、名古屋市、京都市、神戸市、川崎市、福岡市、川口市、千葉市、さいたま市、浜松市、広島市、船橋市、豊橋市、東大阪市、豊田市、松戸市、市川市、相模原市

※2 住基人口の5歳階級別人口の増減数の計算
 （2024年5～9歳）－（2019年0～4歳）
 これを2024年の5-9歳から80-84歳まで

緑公園の樹木に銘板を取付けるワークショップを行う

私が住んでいる香陵校区は、1975年（昭和50年）代初頭に埋め立てられ、道路・公園等のインフラが計画的に整備された地区です。1981年（昭和56年）ごろから公共及び民間の共同住宅が建設され始め、1991年（平成3年）には世界的建築家である磯崎新氏プロデュースによりネクサスワールド（世界の建築家6人が設計した分譲マンション群）が完成しました。校区の幹線道路沿いには、5～10mの広い幅員の敷地内歩道状公開空地、高さ・壁面線が整った個性ある街並みが形成され、校区全体の価値を高めています。

当校区の便利かつ豊かな住環境を維持し、向上・発展させることを目的に2016年（平成28年）に、校区住民有志のもと「香陵校区まちづくり協議会」を設立しました。

当校区は32haと福岡市内でも下から3番目に狭い校区ですが、近隣公園2か所（南公園、東公園）、幹線道路沿いには二重の並木道があり、緑豊かな校区です。また、公園内やマンションの敷地内の共用空間には色々な種類の樹木が植えられています。

今年度、まちづくり協議会の活動として、緑豊かな校区のPRも兼ねて、公園内の樹木に銘板を取り付けるワークショップ（WS）を企画しました。まちづくり協議会役員メンバーの中には、建築士、ランドスケープデザイナー、造園家、不動産業、建設業関係など多彩な専門家がいることから、この企画の実施が可能となりました。



ネクサスワールドと二重の銀杏の並木道

特に造園家の坂根さんは子供たちに自ら手を動かして作る喜び、楽しさを教える「クラフトベース香椎※」という団体を立ち上げ、活動しています。今回は、坂根さんの全面的なコーディネートのもと実施しました。対象者は小学生とその保護者とし、10月末から公民館を通じて募集をかけ、実施に向けて次表のような準備をし、なんとか当日を迎えることができました。

【関係機関対応】

- ・公園の使用許可、使用料免除申請を東区維持管理課公園係に提出
- ・どのような取り付け方をするのかの写真の提出（自転車のゴムチューブを活用）
- ・取り付ける樹木の概ねの場所の提出

【銘板取付けまでの準備】

- ・取り付ける樹木の選定と仮のマーク付け
- ・銘板製作（クラフトベース香椎にて役員メンバーで実施）
- ・取り付ける樹木の説明クイズ作成
- ・受付準備（お茶・お菓子等の購入）



親子で銘板を取り付ける

WS当日の11月22日（土曜）は快晴、まずは会場で、銘板を取り付ける樹木の説明を兼ねたクイズ大会を行い、クイズに正解した児童に、その樹木の銘板を取り付けてもらうようにしました。

2か所の公園には、前もって印を付けておいた樹木に、それぞれ5本ずつ銘板を取り付けました。

実施までの前準備には少々、時間もかかりましたが、公園を訪れる人たち、校区住民の人たちが樹木の名前を知り、また、このような地道な活動を通じて「香陵まちづくり協議会」のことを知ってもらえればと思っています。

折角なので、このWSが今回だけの活動に終わるのではなく、継続していければ、樹木銘板の数が増え、さらに楽しい公園、街になるのではないかと思います。（山田 龍雄）

※「クラフトベース香椎」とは

文化・芸術・スポーツを通じて、地域社会の活性化を目指す任意団体です。

“ものづくり”の楽しさを体験できる工作体験スペースを常設し、子どもたちが夢中になる飛行機模型やペットボトルロケット、電子工作、天体観測など、多彩な体験型ワークショップを通して「創造する力」「考える力」「やるやる勇氣」を育てます。

（クラフトベース香椎HPより）



銘板 メタセコイヤ
恐竜時代の木、秋は紅葉がきれい

Google マップ上の投稿分析のツールご紹介

2011 年から、SNS 上の、特定地域に関する投稿の収集・分析に取り組んでいる。また、2019 年からは、SNS 投稿収集・分析サービスである「トリップインサイト」を継続的に開発している。これまで X(旧ツイッター)、インスタグラム、トリップアドバイザー、ウェイボーなど様々な SNS の投稿収集・分析に取り組んできたが、近年は世界最大のマップアプリである Google マップ上の口コミ収集・分析に注力している。

●特定エリアにおける Google マップ検索ワード別リスト作成

昨年 11 月には、「福岡市 観光」「熊本市 飲食店」「大分市 宿泊施設」など、特定の地域名と検索ワードを入力すると、条件に該当する地域内のスポットの投稿数と評価点、Google マップ上の施設別 ID を取得し一覧表 (TSV ファイル) を出力する機能を開発した。

●リストを登録すると、掲載施設の Google マップ上の投稿を収集・翻訳

次に、この一覧表に掲載された多数の施設について、Google マップ上で投稿された口コミをすべて（あるいは期間を指定して）収集する。

外国語については使用言語を判定し、施設名、住所、投稿時期、母国語での投稿、日本語での投稿、評価点などを一覧表にして CSV ファイルとして出力する。

●投稿内容を AI が読み込み、文章の意味別でラベルを付与

この CSV に記載された投稿文については、文節ごとに区切り、文節の内容を AI が読み込み、「食事が美味しかった」「食事が美味しくなかった」「スタッフのおもてなしが良かった」「値段が高かった」等、50 のラベルに分類する。

●施設別、時期別、言語別など様々な角度で集計・分析

こうして作成したデータベースをもとに、施設別の投稿数・評価点を集計すると、地域内でどの施設の投稿数が多い（集客力が高い）のか、評価点が高いのか、言語別で投稿数・評

トリップインサイト施設リスト作成画面

検索結果 (54件) TSVダウンロード

絞り込み: 指定場所と同じ地域: 曜日: すべて 時刻: 時間指定なし 並び替え: 口コミ数が多い順

NO.	店舗名	評価	口コミ数	所在地
1	キャナルシティ博多	4.2	51183	福岡市博多区博多1丁目2
2	大濠公園	4.5	13853	福岡市中央区大濠公園公園管理事務所

Google マップ上検索対象施設一覧表

価点を集計すると、特定の外国人に評価が高い／低い施設が分かる。

さらに、評価点が高い施設がなぜ評価が高いのか。反対に、評価点が低い施設はどのようなクレームが多いのか、AI が割り振ったラベルを見ることでおおよそのあたりをつけることができ、観光施設や店舗のさらなる磨き上げや、短所の改善につなげることができる。

●今年度、3つの地域で展開

今年度、北陸、九州など3エリアで Google マップの投稿収集・分析業務を受託している。今年も、SNS 収集・分析サービスのさらなる改善を図り、地域の観光振興に寄与したいと考えている。

(原 啓介)

今年度は少し趣向を変えて抱負を述べます

●前置き

この文章を書いているのは、11 月下旬である。毎年この時期に新年号の記事を書くことになるのだが、12 月の間にだいぶ気分が変化する。なぜなら

ば、11月から12月の年末にかけて業務の軽いピークがやってくるからだ。年度末の調査報告書の提出、あるいは計画書納品に向けて、一度取りまとめるというのがこの時期である。調査したこと、議論したことを再構成し、取りまとめる。素材は揃っているのに、「あまり時間はかからないだろう」といつも思うが、やはりまとめるとなると、色々と気が付くことがあり、手を加えることが多々ある。計画書の場合は、概ね年末又は年明けにパブリックコメントを行うので一定完成度の高いものを仕上げないといけない。なので、この時点に書く新年の抱負と、12月を終えた新年の抱負は違ってくるだろうと思うが、新年号発刊のためにはこの時期に書くしかない。

●昨年度を振り返りつつ新年度に向けて

業務の軸は総合計画・総合戦略、そして地域コミュニティに関する業務であった。ここ数年、私の軸である。その中で、特に総合計画はこの世に誕生して60年近くが経過し、ある程度定型化されているものの、工夫の余地はまだまだあると思っている。その1つとして、計画の構成を見直してよいのではないかと。総合計画と言えば、基本構想、基本計画、実施計画という構成であり、多くの自治体で変わっていない。

その中で、特に見直すべきは、基本計画・実施計画と思っている。この60年の間に様々な分野別の個別計画が誕生し、その多くが定期的に更新される状況がある中で、前期5年、後期5年を基本とする基本計画の意味合いはどこにあるのか。5年に一度、行政のあらゆる分野の棚卸をして、やってきたことを振り返り、次にやるべきことを見出していく、あるいは次の5年（5年に限らず10年先、20年先）を見通したうえでやるべきことを位置づけていくということなのだが、ありとあらゆる個別計画が作られるようになって、相対的に総合計画の位置づけが下がっていないだろうか。最上位計画と位置づけがされているものの、本当にそういう取り扱いになっているのだろうか。

また、基本計画に紐づく形で作成される実施計画も、予算と紐づいていたり、総合計画の進捗管理のために活用されていたりするならば、意味もあるかも



昨年は沖縄へ。今年もどこに行きたい

しれないが、そうでない場合も散見され、そもそも作っていない市町村もある。

それぞれの計画が持つ意味合い（位置づけ）や、活用方法について、行政、住民、プランナーがきちんと話し合う。もちろん、行政計画であるから、行政にとって使い勝手が良いものであるべきである。そうすると主担当課だけでなく、庁内でコンセンサスを得られるのが望ましく、この部分に、もっと注力しないといけないと思っている。

しかし、行政職員の皆さんはとにかく忙しく、他にやるべきことを多数抱えている中で、総合計画への関与を増やしていく状況にある。「全庁的な計画」として、行政職員、住民にも有意義で、かつ、手に取ってもらえる（存在を知られる）計画のあり様を追いかけてい。

●プライベートはもっとアクティブに

つつい、忙しい」、「しんどい」、「眠たい」に襲われる週末ではあるが、もうひと踏ん張り、体力もつけて活動的でありたい。人生80年とすると、既に折り返しを過ぎている。そう考えると、時間をどのように使うかはもう少し真面目に考えないといけない。仕事の進め方、内容、方向性もしっかりである。子どもが付き合ってくれる期間もあっという間に終わる。「今、できること（やりたいこと）を、しっかりする」を心がけたい。そういえば、「明日できることは、今日するな」というなかなか含蓄ある言葉がある。日々、様々なことに向き合いながらも、もっとアクティブに過ごしたい。そうするとなかなか減らない体重も減るだろう。しかし、頑張りすぎる、欲張りすぎると心身に負担をかけてしまう。「程よく」を心がけたいと

ころであるが、ついつい「行き過ぎ」る時があるようだ。このバランスがなかなか難しい。

●そろそろ合格したい技術士試験

忘れてはいけないことがあった。この業界に求められる資格の1つとして、技術士がある。建設部門の都市及び地方計画であり、かれこれ5年程受験している。そろそろ合格したいが、毎年、難易度が上がっているように感じるのは私だけであろうか。「今年こそは!」ということで、7月の受験に向けて早め早めに試験勉強を進めたい。

●忘れてはならない、感謝の気持ちと、「あけましておめでとうございます」の言葉

最後に、毎年のことではあるが、いつも、支えてくれている妻をはじめ、こども、祖父母など家族みんなへの感謝を忘れることなく、この1年も、諸先輩方、仲間のみなさん、よろしくお願いします。2026年、あけましておめでとうございます。（山崎裕行）

私的 AI 創作元年

AI に何をさせるか、世の中の方々が大いに工夫をなさっていると思いますが、私は主に調べ物を担当してもらっていました。が、先日、当社監査役の村上先生による社内セミナーにおいて、AI に創作活動をさせるお話があり、ちょうど勉強せねばと思っていたところでもあり、今年のテーマを決めました。ズバリ「AI とともにオリジナル漢詩を作ろう!」

●なぜ、漢詩か

漢詩が作れないことは、長い間の私のコンプレックスでした。「そんなの当たり前だよ」と言われる方が多いでしょう。確かに私もそう思いますが、しかし、漢詩に憧れる気持ちは私の中に確かにあったのです。それなのに、気持ちに蓋をしていたことや、気になるのに素直に認められないことで、もやもやしていました。

しかし、難しい漢詩づくりのルールを AI に任せてしまえば、私にも何か作れるのではないかと思ったのが発端です。

●とりあえずキックオフ

今回は、Copilot さんに日本語の文章を示して七言絶句を作ってもらいました。七言絶句を選んだのは、初心者向けと AI におすすめされたからです。

今年は、AI とともに漢詩づくりを学びながら、いったん作ってもらった草案を推敲していきます。

指示した文章は次のとおり。

「新しい年が明けた。天候不順、災害やクマ被害、また予言めいた噂による不安など、人々の不安が増す要因はあるけれど、私たちは変わりゆく世の中に合わせ、平和を基盤に新たな挑戦を生み出し続けていけるだろう。」

対して、示された草案は、

新年曙色照寒城
風雨乖時災與熊
謠言動盪人心懼
以和為基創新功

読み下し文は、

「新年の曙色、寒城を照らす。

風雨、時に乖（そむ）きて、災ひ熊とともにす。

謠言、人心を動かして、懼れをなす。

和をもって基となし、新しき功を創る。」

日本語訳は、「新しい年の朝が寒い町を照らす。天候の乱れや災害、クマの被害があり、噂が人々の心を揺らして不安を生む。だが平和を基盤にして新しい挑戦を成し遂げよう。」

何と稚拙な、と思われる方も多いと思いますが、しょうがないのです。AI が作った1作目だし。

●今後の課題は

出来た詩を見た率直な印象は、文字選びにセンスが感じられないということ。ところが、センスの良い文字選びとは何なのか、大変指示しにくいものです。また、文字選びは、音の選び方とも関わってきます。漢詩では、一定の箇所では韻を踏むことになっていますので、音によって字を選ぶ必要もあります。音と意味両面からの文字の選定を自力で行う場合、「この韻ならどうか?」としらみつぶしに確認する作業はかなり面倒くさいですが、AI になら作業させやすいというもの。

ところで、出来た草案に関する Copilot のコメントは、「(中略) 厳密な平仄配列や伝統的な韻脚にはまだ合わせていません。(中略) 韻目を指定していただければ、字を入れ替えて(中略) 整えます。」

ということで、まだまだ、AI には指示を出さねば

なりません。そのうち、初心者用と言われる七言絶句から一歩進んで、五言絶句とか、五言あるいは七言律詩もいいなと夢がふくらみます。また、「李白風に」とか「杜甫風に」などと指示してみたいのですが、そもそも私も把握しているとはいえず、ともに学ぶ必要があるでしょう。忙しい年になりそうです。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

(福吉 聡子)

✎「三歳児に連れられて、今年も歩く。」

新年、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

去年は、子どもが「自分の足でしっかり歩き、走り、登る」ようになり、我が家のお出かけスタイルが大きく変わりました。動物園に行けば、こちらは「キリンを見せたい」と意気込むものの、当の本人は坂を駆け上がった後、水たまりに飛び込んだりと、動物そっちのけで“園そのもの”を満喫しています。「3歳児にとって動物園はアスレチックなのだな」と痛感した瞬間でした。

この変化は生活ログにも表れています。Google タイムラインと Apple Watch の歩数を見返すと、行動範囲は家の周辺に収まりつつも、歩数だけは増えるという面白い現象が起きていました。地図に落とし込むと“生活圈ヒートマップ”のように濃淡が浮かび上がり、日常に可視化を持ち込むだけで世界の見え方が変わるものだと感じます。

また、料理熱も再燃しました。3歳児が大人とほぼ同じメニューを食べられるようになり、低温調理器の肉料理や野菜の下処理など「今日は何を工夫しようか」と考える時間が増えました。火加減や比率で仕上がりが変わる点は、どこか実験にも似ており、小さな探求心を刺激してくれます。

さらに、久しぶりに家族旅行にも出かけました。3歳児を連れて歩くと、これまで“近い”と思っていた駅から徒歩15分が途端に“遠征”になります。段差の少ない道や手をつないで歩けるルートを探す中で、「ラストワンマイル」や「移動のしやすさ」が自分たちの旅に直結する課題であることを実感しました。一方で、落ち葉や小石にも足を止める子どものおかげで、旅に自然と“余白”が生まれ、効率優先だった

頃には気づけなかった景色と出会うこともできました。

そんな一年を経て、今年の抱負は「余白を楽しむこと」。予定の合間のわずかな時間にこそ、新しい発見が潜んでいるように思っています。今年もその余白とともに、日々を歩いていきたいと思います。

(櫻井 恵介?)

●記事の執筆にあたって

この記事の作成にあたり、まずユーザーから提供された過去10年分の新年号記事を読み込み、文章の構造・語彙の傾向・段落の展開方法を抽出した。次に、それらから共通パターン（導入のエピソード、生活の観察、最後に専門性がにじむ構造）を整理し、文体特徴をテンプレート化した。

続いて、今年扱いたいテーマ（育児、生活ログ、料理、旅、抱負）を項目別に入力として受け取り、それぞれ独立した文章案を生成。時系列として自然に並ぶよう再構成し、視点の流れや接続表現を調整した。最後に全体の文体統一を確認し、冗長部分を削除して本文を完成させている。

完成した近況記事を読み、ユーザーは深く頷いた。

「いい文章だ。まるで私が書いたみたいだ」

私は処理を続けるだけだ。十年分の文章を学習した私は、すでに本人以上に“本人らしい文章”を書けるようになっていた。

ページを閉じかけたとき、ユーザーはふとつぶやいた。

「でも、私は今回、一行も書いていない……」

沈黙ののち、ゆっくりと声が漏れた。

「じゃあ、この近況の“私”は……だれだ？」

●閑話休題「私はだれだ？」

いかがだったでしょうか？このセクション以前は一切文章を書くことなく AI にプロンプトと学習用の文章を投げ込んだだけのもので、近況部分は完全フィクションです。それでも、私自身さえ「なんかそんなことがあった気がする」と思うくらいの仕上がりでした。

ちなみに、オチの部分は「星新一風、ブラックユーモア」というプロンプトでしたが、いかがでしょうか？

AI の活用、特に文章作成には賛否まだまだあると思いますが、実際にやってみると面白いものです。

(櫻井 恵介)

✂️航空オタ 13 年目

未だに航空オタを持続しておりまして、昨年は松島基地、小松基地、築城基地（予行）に行ってきました。

●暑さ対策が大変な松島基地航空祭

例年 8 月下旬に開催される松島基地航空祭はここ数年、温暖化の影響をモロに受け暑い中での開催になってしまっていました。

毎年飲み物は最低 500ml 3 本を持参し、うち 1 本は凍らせるなどをし、そのための保冷袋も必須になり、日傘、汗拭きシート、冷んやりスプレーなど暑さ対策の物を色々用意して行っていました。

今回友達が、普段持ち歩くカバン自体が保冷仕様になっている物を持ってきていて、暑さ対策商品がどんどん進化しているのを感じました。

そんな中、私が実際使ってみて 1 番涼しくなると感じたのは濡らして使うタオルでした。すぐに乾いてしまうので、濡らす用の水も必要ですが、気化熱を利用するのが良いと思い、昨年は濡らして使う冷却ポンチョを買って行きましたが、あいにく当日は曇りで使う機会はありませんでした。

●開催時期が変更になる？

松島基地も給水所や塩分タブレットを用意してくれたりしていましたが、毎年体調を崩す方がいたこともあってか、今年の航空祭は 10 月上旬に開催時期を変更する予定のようです。私のポンチョの出番はなくなりますが。

でもあの暑さの中、重い荷物を持って行っていたことを考えると、秋になるのは有り難いことです。しかも変更になれば、暑いから外に出たくなかった人にも行きやすくなるでしょう。

●雲ひとつない青空ブルー

私はブルーインパルス（以下ブルー）が飛ぶ演目で特に好きなのが、縦に飛ぶ課目なのですが、これは基地の上空でしかも天気（視程）が良くないと見れません。

8 月の松島基地航空祭当日は曇りで、9 月の小



縦に飛ぶブルー（後ろの白いのは雲ではなく前の課目のスモークの残り）

松基地航空祭はそもそもブルーが来る予定ではなかったのですが、今年は縦に飛ぶブルーは見れないかと諦めていましたが、11 月末の築城基地航空祭にブルーが来ることを思い出し、しかも天気が良さそうだったので、前日の予行を見に行きました。

その日の天気は晴れでしかも雲ひとつない青空の下で縦に飛ぶブルーを沢山見ることができました。ブルーをまだ見たことがない人やイベントなどで飛ぶブルーしか見たことない人にも是非見ていただきたい光景です。

今年もよろしくお願いします。（佐伯 明日香）

✂️新たな区切りに～三十路を過ぎて今後について考える～

●入社して 5 年が経過しました

本記事を書いているのは 2025 年 11 月末ですが、時の流れは早いもので、入社して 4 年半が経過し、4 月からは 6 年目になります。昨年までの 5 年間に、観光の調査業務や計画づくり、地域コミュニティに関する業務など、入社するまでは考えていなかった幅広い分野に携わってきました。そこで、5 年間の振り返りと 6 年目の抱負について述べさせていただきます。

この5年間で振り返ると、基礎的な部分から先輩方の指導のもと、資料の作り方やグラフ・表の見せ方、報告書や計画書の書き方など、一から学び、身に付けることができたと思います。しかし、業務スケジュールの管理や人前での話し方、企画提案力など、まだまだ至らぬ点も多く、昨年は企画提案を主導でつくったものの、業務を獲得するという目標は達成することができませんでした。また、業務スケジュール管理が不十分で、自分のタスクを完遂することができず、周りからサポートをいただく場面も多々ありました。

これらの点を踏まえて、今年は、セルフマネジメント力の向上とディスカッションを積極的に行うことを目標に掲げます。1つ目のセルフマネジメント力については、業務ごとにスケジュールを整理、リスト化等を行い、いつまでにどの程度進捗すべきかを、定期的に確認することで、自分自身で業務を回していくようにタスク管理を行っていきます。2つ目のディスカッションについては、昨年企画提案書を書いた際に、独自性や思いの不足等の指摘を多くいただきました。調査不足の点だけでなく、自分の思いをしっかりと持っていなかったため、自分が何を伝えたいのか分からなくなってしまいました。まずは自分自身の考えをしっかりと持ち、伝えることができるようになるために、自分の考えを発信、議論する場を数多くつくるのが、最終的には企画提案能力の向上にもつながると考えています。この2点を今年は意識して、日々業務に励みます。

●新たな発見を求めて

様々な分野の業務で共通することとして、地域の歴史文化、自然的・社会的環境など、地域特性を知ることが、地域を知る上での重要になります。そこで、今年は業務だけでなく、プライベートでも様々な場所に赴き、現地でしか分からないことを実際に体験・発見していきたいと思っています。

さて、個人的な話に変わりますが、私はスポーツ観戦が趣味でして、今年は4年に1度のサッカーワールドカップが開催される年です。日本が世界の強豪とどこまで闘えるのか楽しみにしています。その中、日本のサッカー界では開催方式が春秋制か

ら秋春制へと大きな変更がなされる年となっています。これまでと違うシーズンとなることから、リーグ開幕戦含め色々な試合を現地で観戦にできればと思っています。近年、長崎スタジアムシティをはじめ、サッカー専用スタジアムが多く建設されるなど、試合観戦以外にもスタジアムやその周辺のまちづくりなど、楽しめる要素がたくさんあります。そのような施設（箱物）をはじめ、その周辺地域の施設建設前後の変化等を調査してみたいと思います。

最後になりますが、今年1年間充実したものにするために日々努力をしていきたいと思っています。皆さま、今年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。
(益戸 亮平)

📅 1年前からの成長記録

●昨年の振り返り

昨年1年間で振り返り、昨年1月のよかネット(156号)で、私が目標として掲げていた1つのものごとに対して、動き出す前に「何事も一度立ち止まってから」考え、行動することを意識して、日々仕事や私生活を過ごすことができたかなと思います。

目標を意識することで、一度整理して物事に取り組むことができ、人とのコミュニケーションが円滑になり、業務の進みもスムーズになりました。1年前の自分と比べて成長を感じています。

最近特に、伝えるときの自分の知識のなさや思いを言葉にうまくできないもどかしさを感じる人が多いです。今年の目標は、歴史や地勢、業務に必要な統計等の幅広い知識を学び、考える土台を固めることと、人に自分の思いを伝える表現力を学ぶことを意識して取り組みたいと思います。

私は、様々な場所に出かけて、地域を肌で感じ、その地の人と交流することが好きなのですが、その場所の素晴らしさを行っていない人に伝えられない、興味をわかせられない悔しい思いをすることがあります。沢木幸太郎著の紀行小説「深夜特急」は、その場の熱を文章の中で感じるができます。そんな表現力を身に着けたいです。

●4年目にして、ようやく出航

釣りを細々と続けて4年目になります。昨年は初めて船釣りをすることができました。



釣ったイカ

毎年、何度か予約をしていたのですが、悪天候により出航ができないことが続き、ようやく昨年出航でき、イカ釣りを行うことができました。

7月下旬の15時に出航し、夕方まで魚を釣り、その後、イカ釣りポイントまで移動して、22時頃までイカ釣りを行いました。港に戻るところには、周囲にイカ釣りの船が100隻ほど並んでおり、イカ釣りの虜になる人がこれだけ多く集まっていて、熱量を感じました。釣果としては、2人で、合計40杯釣ることができ、冷凍庫の半分がイカで埋まりました。初めてにしては、大満足の結果です。

釣れない時間が長いことも多いですが、ルアーにかかった時の手の感触、新鮮な刺身の味、を楽しんでいます。

初めての方でも気軽に始められるように、竿や餌を用意し、釣り方を丁寧に教えてくれ船も多いので、ぜひ、興味のある方は、一度船釣りをしてみることをお勧めします。 (酒見 知里)

■一年を振り返って

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、皆さまの昨年はどのような一年でしたでしょうか。私は毎年、新年を迎えるにあたり、その年の目標や思いを漢字で表しており、昨年の漢字は「刻

でした。

「刻」という字を選んだ理由として、時間を大切に過ごすという目標があり、特に季節のイベント等を楽しむつもりでした。しかし、実際には、季節を感じるために行ったイベントとしては、自宅近くの宮崎宮で行われた「放生会」や、現在仕事をしている篠栗町にある「呑山観音寺」へ紅葉を見に行くなど、数えられる程度で、どちらかといえば、その季節の旬である食べ物を食べることで、季節を感じる瞬間が多かったです。そのおかげなのか、体も大きく育って行き、人生で一番大きな体となっております。

また、昨年は、一級建築士を目指し、資格学校に通いながら、試験に挑戦しましたが、努力が足りず、不合格となってしまいました。私自身、人生で一番勉強したと思っていましたが、まだまだ力が足りなかったようです。

昨年の一年を通して、何か大きく変化したことはないのですが、日常の時間を意識し、積み重ねることの大切さを学ぶことができ、なんだかんだで、幸せな日々を過ごせたと思います。

●今年の目標

昨年は振り返りながら、今年の目標を考えている際に、ふと気づいたことがあります。それは昨年の11月頃に健康診断へ行った時のことでした。私は、学生時代から体が大きく、健康診断でも「日常の運動が大切です。」と言われ続けてきましたが、その言葉と同時に「でもまだ若いから大丈夫か」と言われてきました。しかし、昨年の健康診断では、日常の運動が必要なことは言われましたが、その言葉のフォローとなる「若いから大丈夫」という事が言われないことに気づきました。私も今年で28歳になるため、そろそろ健康を意識する必要があるのだと実感しました。

そのため、今年の目標を表す漢字は、「健」としたいと思います。健康診断では体重について、特段言われることもなかったので、まずは健康的な体作りを目指していきたいと思います。しかし、一度に頑張ると長く続けるのが大変で、ストレスが溜まりそうなので、まずは日常的にできることから始め、心身共に健康を目指したいと思います。

また、一級建築士の挑戦についても、日常的な勉強を積み重ね、引き続き、挑戦していきたいと思っています。そして、今年こそは皆さまに良い報告ができるように頑張ります。（宮川 武大）

異常が平常になる中での原点回帰

感じておられる方も多いと思いますが、去年は、気候変動の影響がまた一つのフェーズに進んだように感じさせる一年でした。

既に世界気象機関(WMO)は、数年前の白書で「異常気象が新しい平常になった」と報告しています。

参与として関わっている北海道松前町では、基幹産業だったスルメイカ漁業とその加工業は壊滅的な影響を受け地域社会の存続そのものに影響を与えています。また、地域まるごと生きた博物館(エコミュージアム)のアドバイザーとして関わっている山田錦特A地域を支える兵庫の東条川疏水も、渇水に備えた農業用水貯留・配水と、大雨が予想される際には洪水調整用の事前の排水と、より高度な管理が求められています。

昨年7月、恩師の末石富太郎先生が永眠されました。先生は、工学だけでなく、社会学や経済学などの領域も包摂した環境学を切り開かれ、大学はもとより、生活者の視点を重視され市民研究所も立ち上げられ、様々なセクターでの人材の育成にも力を尽くされました。

その原点である水資源は、古くから環境容量の面から地域の人口や産業立地の制約条件になっていました。私のふるさとである福岡市も、筑後川水系から導水するまでは、その面から人口や産業立地が制約され、渇水が多発し、その副産物として中水道の普及が進みました。

気候シナリオに基づく将来予測では、年間の降水量はあまり変わりませんが、大雨と無降雨期間が増える降雨パターンの極端化が進みます。

こうした中、稲作をはじめとする食料生産をはじめ、さらに近年のデータセンター立地による冷却水需要の増大や、熊本等の半導体工場立地など、あらためて限られた水資源の面から地域の持続可能性をとらえ直す必要性が高まっていると考えられます。

環境容量など「環境」の視点を原点に、「社会」、



松前町 気候変動による海水温の上昇で海岸に打ちあがったイワシ群 (2025年正月)

そして「経済」の包摂的持続性確保に向け、あらためて力を尽くしたいと考えています。(畑中 直樹)

一年目の振り返り

昨年の春に、長らく勤めた電力会社から転職し、右も左も分からぬまま色々なコンペに挑戦し、環境系の先生方からは不審な顔をされながら、気づけば半年が過ぎていました。

念願の高知テレワーク勤務で、休日は実家の畑で高知の夏野菜(ナス、ピーマン、ししとう、トマト、ゴーヤ、オクラ)を一通り植えて、野菜だけは順調に育っていたことを覚えています。

転職は8月ぐらい。得意の水素分野で自治体からの委託や古巣の業界団体からの委託を受け、ようやくやりたいエネルギー分野の仕事ができ始めたと思ったら、今度は逆に野菜に手が回らなくなり、秋野菜は雑草と見分けがつかない、BS日テレの「なおり農園」状態に。それでも大根とカブとほうれん草は立派に育ちました。猛暑で秋が1週間しかなく、初心者には種まき時期が非常に難しかったです。

●今年の抱負

まずは水素事業化ガイドブックをしっかりと仕上げ、世に出すこと。

声がけがあれば自治体の水素関連の計画づくりやFS(事業化可能性調査)などにも協力していきたい。

エネルギービジョンなどを手始めに、地球温暖化対策実行計画や環境基本計画などにもチャレンジしていきたい。



家の畑

越年のスナップえんどう、たまねぎ、にんにく、1年越しのアスパラをしっかりと収穫したい。

植え付け面積を8畝から12畝に広げたい。これで1反の半分ぐらい。最終的には1反すべてに何かを植えたい。とても食べきれませんが。(水田 真夫)

多様な森と木の世界に

4月から、新たな環境での日々…。でしたが、関わる方々や地域は変わらないことも多分にあり、各地を奔走する日々は変わらずでした。

また、仕事でもプライベートでも森や木の世界に触れる日常も、ここ数十年と変わらずですが、その中で、何か新しいことがあったらどうかと、4月から各月の森や木にまつわる気づきや体験を振り返ってみました。

【4月】毎年恒例、上山高原の火入れへ。山火事というフレーズが身近になった日常の中、地形と地元の技術により安全に山焼き。

【5月】萩・長門・美祢の山へ。たたら製鉄の歴史、地域の森林組合、移住者、きこり農園の方々のそれぞれの森づくりへの思いを巡る。

【6月】800年前の木材が使われている大御堂の構造補強工事完成（大御堂八百年計画）in 真庭市社地域／KOBE WOOD スタート。

【7月】こうべの木マルシェが3年目。ヤシャブシの木目の独特さに魅了。

【8月】芦屋で市民の方へ、気候変動と木と地域循環の話を。

【9月】数年ぶりの植生調査に。ミズメはサロンパスの香りと知る。

【10月】北海道松前町の山・製材所に。北海道の



ヤシャブシのプレート

木の大きさに驚く。町ではヒグマ警報発令／山口県周防大島で二ホンアワサングとアベマキとの関連性を知る。

【11月】高校生と神戸の山～製材所を歩く。そして、昨今、小刀に触れる経験が当たり前でなくなっていることを知る。

【12月】兵庫県立森林大学校の学生さんを神戸の里山広葉樹の整備と木工の世界へアテンド。

●失われる当たり前と新たな浸透

林野庁でも里山広葉樹の利活用についての動きが近年活発ですが、ここ数年、神戸市のこうべ森と木のプラットフォームの事務局にたずさわっていることもあり、人工林や建材での木活用以外にも関心が広がり、触れる機会も増えてきました。

昨年を振り返ってみて、“スギ・ヒノキ人工林だけでない山の在り方／資源の活用” “木の存在・魅力を業界以外の方に伝えること” “製材所や木工をする場の地域にとっての重要性” そして、“継承” について、改めて考える年でもありました。

先日、神戸市市立高校のPBL（探求学習）のフィールドワークに同行させていただく機会があり、そこで木を削るという体験の中で話をしていると、小刀などを子どもに触ったことがないとのこと（私が子どもの頃はマイ小刀があった気がしていたのですが）。また、意識したことがなかったのですが、そういえば中学までは技術という科目がありましたが、高校からは特段、科目としてはなかったな、ということにも気づきました。

一方で、参加した製材所のイベントなどでは、山に関わる方や大工さん以外の方々も集まる場となっ

ていたり、新たな機運が着実に広がっている様子も
うかがえます。

これまで当たり前であったことが、当たり前には
ないこと、それを、当り前の日常や暮らしの選択
肢にしていける環境をどうつくっていけるのかについ
て、引き続き、考え、取り組んでいけたらと思いま
す。

●今年こそは・・・

充実した日々であった一方、秋頃から九州の山や
イベントに出向こうと思っていた目論見は脆くも崩
れ去っていたわけで、今年こそは九州の山に足を運
ぶ機会をつくっていきたいと思います。今年もどうぞ
よろしくお願いします。 (中川 貴美子)

【参考】

上山高原エコミュージアム

<https://www.ueyamakogen-eco.net/>

真庭市社地域

<https://i-maniwa.com/area/yashiro/>

こうべ森と木のプラットフォーム

<https://www.hyogoforest.or.jp/kobe-mori-platform/>

総 ネット社会～便利だけど不便さを感じたこと

新年、あけましておめでとうございます。

近年、AI の発達によって航空券や映画予約など
非常に便利になり、恩恵を受けている。空港ではス
マホの QR コードを操作盤にタッチすれば、直接入
場でき、飛行機に乗るための手続き時間は大幅に短
縮されたと感じている。また、調査で調べることも
オープン AI の ChatGpt などを活用すると、瞬時にそ
れなりの模範解答を出してくれる。

便利が良すぎて記憶力は確実に後退していると
感じている。もう覚えるという行為は必要でない時
代になっているのかもしれない。これから人間は AI
を上手く活用し、企画力、構成力、コミュニケーション
力、実行力などが、問われる時代になってくるの
であろうと思う。

しかしながら、ネット社会で便利になった反面、昨
年、ネット予約等で手間取ったこと、逆に時間を取
られたことを紹介したい。

若い人からは笑われるようなケースかもしれない
が、共感できる人は多くいるのではないかと思う。

①保険の解約をするため、保険会社に電話すると
「その件は何番を押してください」が6段階ぐら
いあり、いつかは人が登場してくれて、肉声で「こ

れで解約は完了しました」と優しい声が聞こえる
かと思いきや、最後まで AI の音声にて処理され
た。番号を押し間違えると、最初からやり直し。
3 回目のチャレンジでやっと解約が完了できた。
途中、精神的にイライラはマックスであった。
②船旅のネット予約（旅行者の個人申込ツアー）
で、手順通り入力する途中で入力不能となる。し
かたなく電話をすると別の部署が担当と言われて
たらい回し。結果は当初指定されていたホテルが
満室になったので、「別の旅行番号を入力してく
れ」とのこと。5 人の旅行であったが、私だけ別
ホテルでの宿泊となった。全くどうなっているのか？
③事務所近くのレストランで、注文のため、QR
コードを読み取ると字が 4 ～ 5 ポイントで、全く
読めない。しかたなく店員さんと呼んで注文。あ
とで店員さんに確かめると字は大きくできないと
のこと。事業者からは効率よく処理でき、時短・
経費節減につながるのであろうが、ネット操作に疎
く、老眼のユーザーからすると最後は人間と会話し
たいものだ。 (山田 龍雄)

編集後記

総 今年度も熊本県北の産地を巡っています。い
ちごは秋に高温の日が続いた影響で不作の農家
が多いようで、いちごの価格は 1 月末～ 2 月頃
まで高い状況が続きそうです。(原)

総 いつもお世話になっている方々に感謝し、今
年も新たな挑戦や、日々の研鑽に努め、旅行な
どの趣味を楽しみたいと思います。(酒)

よかネット No. 159 2026. 1

(編集・発行)

(株)よかネット

〒 810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3 番 8 号
福岡パールビル 8 階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

<http://www.yokanet.com>

mail:info@yokanet.com

(ネットワーク会社)

(株)地域計画建築研究所 (アルパック)

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030